

連載

9

在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

生活の質 (クオリティー オブ ライフ)



「私は何があっても、入院はしない。自宅療養する」と、多くの患者さんは言います。

最近特に思うことがあります。日本という国ほど恵まれた生活環境はないでしょう。不景気であったり、天災・人災に見舞われたりして被害を受けることもあります。しかしながら、三度の食事ができ、そして平和であることは何があっても最高なことではないでしょうか。

『“生活の質”とは何か?』それは現在の社会保障の視点ではもっとも大切なキーワードになっています。

人間は歳とともに、歩くことが不自由になり、物忘れが始まり、物を食すと誤嚥ごえんするようになります。また、転倒骨折を起こしたり肺炎になったりします。それでヘルパーさん

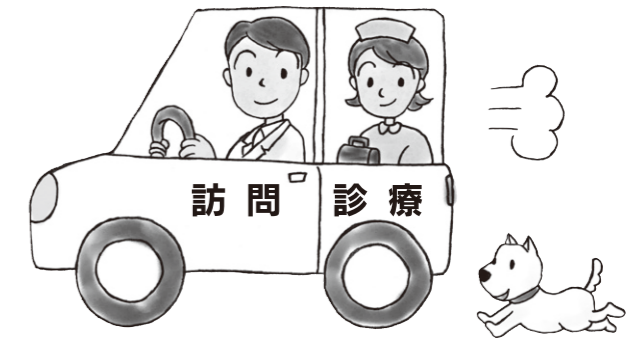
や往診の医者にお世話になったとしても自宅での生活を継続したいでしょう。一時的に重症で入院したとしてもやはり自宅での生活を一番希望されるでしょう。現在、国の方針は長期入院から在宅での療養を勧めています。

平成元年ころ、すでに元日本医師会長 武見先生の発案で“医療環境研究会”という勉強会が東京で開催されていました。講師は田中角栄元総理、大蔵厚生官僚そして朝日・毎日・読売の三大紙、NHK、日経新聞論説委員等々の錚々たるメンバーでした。

副会長の勧めで私もその会に出席するようになり、国策を知りました。そして平成7年ころ始まった全国在宅医療事業に参加することとなったのです。

「お医者さんが来てくれる」

質の高い在宅医療・看護・介護を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>